

【四季折々・from Kobe】7月 6月28日 あっという間の早い梅雨明けと猛暑襲来にもびっくりです

初夏 梅雨の雨上がりやゆったりと 神戸7月初夏 神戸紫陽花の便り

2022.7.1. Mutsu Nakanishi

収録 1. 桂文珍 落語見聞録 茗荷宿 神戸新聞より 我が家も夏の薬味 茗荷がすくすくと

収録 2. 立場の異なった人たちがつながる 6月 気になった新聞記事より

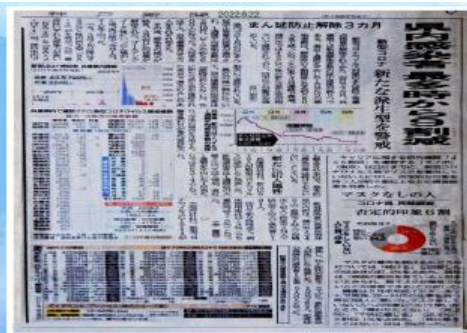
先が見えぬ日本 先がどうなる6月22日 参議院選挙が告示

【スライド動画】 梅雨の雨上がり 2022 雨上がりの紫陽花

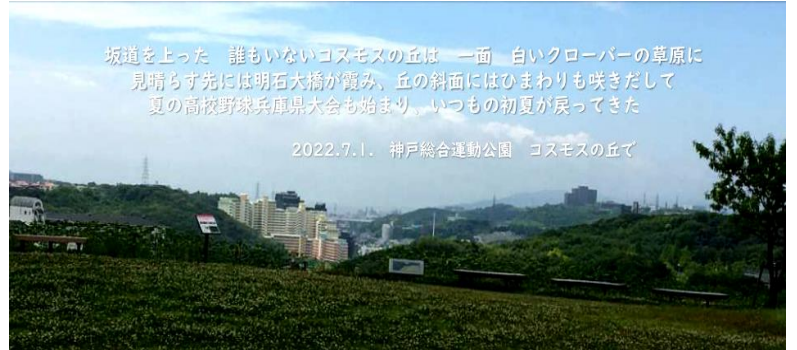
<https://infokkna2.com/ironroad2/2022htm/walk19/R0407ajisai.mp4>



田圃に水が入り、周りの山が水に映える里 街にも活気 子供たちや学生たちの明るい笑顔
やっとならぬコロナ禍も収束の道をたどるのか…
先が見えぬ厳しい世相に 気候変動・激甚化する自然災害が追い打ちをかける日々
気が休まらぬが、ほんと わが身や周囲を見渡すには、そば降る雨もよし
期待が膨らむ7月になるようにと自らをはげます毎日 仲間との出会い 老いを元気に！
好奇心一杯で過ごす毎日 walk まだまだ元気です



梅雨の雨上がり 2022 雨上がりの紫陽花 雨に濡れた紫陽花の清純な美しさ
 ちょっぴり憂鬱な時季ですが、雨が降るからこそ美しい梅雨の絶景
 そっと顔をよせて、 ゆったりとした時を独り楽しむ



毎日のWalkの中で、こんな素晴らしい梅雨時の晴れ間の景色にも出逢いました



■ 先が見えぬ日本 先がどうなる 6月22日 参議院選挙が告示 6月気になった新聞記事より

6月22日参議院選挙が告示され、7月10日の投票に。マスコミを通して、各党が数々の選挙公約を論じているが、やっぱり響かない。神戸新聞のコラム「正平調」にはこんな意見が・・・

神戸新聞 2022.6.17.朝刊 コラム「正平調」より

正平調

「私は心配する」。詩人の杉山平一さんがそう書いたのは、もう30年以上前のことだ。何を心配するののか。「中流意識にかげりが出はじめたという報道」である◆「国民は、食えなくなったとき、戦争もイデオロギーも何のその、食える方へ、雪崩れうつて向かうからである」。大正に生まれ、従軍も空襲も経験しながら終戦までの道筋を見つめた詩人は憂えた◆多くの人が「中流」と感じた時代は今や遠い。格差を切実に訴える論文「31歳フリーター。希望は、戦争。」が議論を起したこともあったのに、雇用不安と貧困に苦しむ層は年々、厚みを増すばかりだ◆暮らしを整え、ささくれがちな心を落ち着けたい。そこそこ食べられて将来を見通せて、子どもたちが望む教育を受けられる。そのためにどんな処方箋があるのか、聞きたい。公示を迎える参院選に向け願う◆だが永田町から聞こえる声は物価高対策に触れながら、気付くと「国を守る」といった勇ましいものに変わっている。食料も資源も、「安全保障」でくくられる。ほかに言いようはないのか◆杉山さんの詩「思想」を引く。へいくら眼鏡をぬぐって／も／よく見えない／へくもっているのは／目の方だった。どうか、目のくもりも何のその、と突き進まぬように。 2022.6.17

同感です。

政治家の発言の軽さ・当事者責任のなさ・仲間意識が支えの政治が 今も露呈し続けている。

世界・地球・そして日本がどうなるか その瀬戸際の中で、日本は益々複雑化する「人・社会・生活」に目をつぶり、

IT・情報をもたらした 物・マネー重視の「軽薄短小・集中・効率・スピード・同化」の負の遺産をいまだに引きずっていると見える。今や世界は人重視・多様化に舵を切り始めたのに……

年寄りの戯言 当事者意識の欠如した三人称発言・会見 もうやめにしたらどうか・・
2022年5月 和鉄の道 HPより Mutsu Nakanishi

ポストコロナで迎える新時代 激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。
「コロナ対策と経済・雇用の回復への暮らし・雇用・経済の復興」に並行して
もう待ったなし「人類の危機地球温暖化の歯止め止め 低炭素社会への大転換」
誰も避けられぬ経験したことのない
「令和の産業革命 社会・経済の激烈な再編の時代」へのターニングポイント

「数が頼みの仲間意識の強い頂点同調・丸投げ・余裕のないマネーゲーム」の中で「自己の変革・革新」の道を閉ざしてきた日本。アベノミクスと称して 言葉に酔う政治は願い下げにしてほしい。

未だに大企業の品質保証・検査結果の偽装が続く現実日本は日本の状況をよく表している。

私の現役時代に 欧米の「Copy exactly」と日本の「日々改善 即実行」の運用について、論議したことが何度もある。

未だにこの理念がしめす運用理解のない日本が寂しい。

リーダー層が頂点同調・丸投げを武器に経験重視を振りまわす時代ではない。また 勉強しないリーダーは願い下げ。

この6月の新聞記事やコラムには 先行き不安の中での参議院選挙の中で相変わらずの政治「中央追従型 丸投げの人間軽視」を批判する立場の論がいくつも見られるようになった。(収録2)

先が見えぬ厳しい世相に気候変動・激甚化する自然災害が追い打ちをかける日々ですが、コロナもやっと落ち着く兆し。

まだまだ予断はできませんが、収束の兆し気が休まらぬが、そばふる梅雨の雨もよし。

ほっと一息 わが身や周囲を見渡し、先を考えねばと。

また 人それぞれ 私の勝手な言いぐさで理解していますが、 つい ぶつぶつ 同じことを言っています

2022.7.1. From Kobe Mutsu Nakanishi

参考

■ From Kobe 7月 収録2. 6月気になった新聞記事より 「立場の異なった人たちとつながる」

<https://infokkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0407newspaperA.pdf>

■ 7月神戸便りの更新中に梅雨があけました また6月というのに・・・

期待一杯の7月になるように 声かけあって厳しい夏を乗り越えましょう



ウクライナに平和を!



へいわってなにか。ほくは、かんがえたよ。
ねこがわらう。おなががいっぱい。やぎのんびり
あるいてる。ちよいめいそうがたくさんはえ、
よなぐにうまが、ヒビーンとなく。
みんなのころから、へいわがうまれるんだね。
これから、ずっとへいわがつづくように、
ほくも、ほくのできることからがんばるよ。

安里有生/詩 長谷川義史/画



もう 自分の時代ではないと感じる昨今ですが、
まだまだ好奇心旺盛 気力もあり、足も復活。
不定期になりそうですが、元気に前向いて発信をと。
後期高齢者だからとは言えなくなった新型コロナへの戦い
そしてポストコロナの時代へ
みんなの一番の願いは穏やかな日常の生活を取り戻せること
前向いてがんばりましょう

困難の中にある仲間へ 思いをはせています。
みんな老いと向き合う年に
一人で頑張らず、無理せず みんなに声あげて!!
仲間がいる。仲間の元気はみんなの応援歌
互いに連絡取り合っ 元気に前向いて笑顔で今を。

God Be With You!!

From Kobe

Mutsu Nakanishi

◆ 原爆資料館 映像展示資料 原爆を投下された広島

平和憲法は日本の柱 平和憲法を守ろう

国の大きな転換点 今 声を上げねば !!

平和を今 自分の頭で考えよう



狭い縦走路のドクン中にどっしりと座り
いつも元気をもらうウバメガシノ巨樹



群生するウバメガシの中を歩く
西六甲須磨縦走路で



いつも元気を貰う妙法寺
車の里の車の里大歳神社のの大楠

最近巨樹の生き様を TV 等で見る機会多し。先日「葉が前部落ち、枯れ木に近くになっても、樹木は根さえ生きていれば、根元から新しい芽・枝を出す。動けぬ樹木は常にその準備をしていると。また、根は水分と共に土壤細菌と共生することで、動けぬ身を補完しあっている。このため、土壤細菌を活性化させる酸素が根に供給されないと根が死んで、息の根を止められてしまうのだ」と。巨樹のあのたくましいごつごつした巨体は本体が切られても本体が折れても、準備してきた根元や切られた幹から、新しい芽をだし生き延びてきた生きざまそのものだと言いました。

私たちが巨樹に惹かれるのもそんな生物共生・循環を知らずとも知っているからかも・・・・・・

樹木医はこの巨樹の生きざまを助け、樹勢を回復させてやるのだという。

すごく感動し、またひとつ 巨樹を眺める視点ができました。

ポストコロナで迎える新時代 激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。

「コロナ対策と経済・雇用の回復へ

暮らし・雇用・経済の復興」「人類の危機地球温暖化の歯止めも

もう待ったなし。低炭素社会への大転換」

誰もが避けられぬ経験したことのない

「令和の産業革命 社会・経済の激変な再編の時代」へ

みんながみんな避けることのできぬ厳しいターニングポイント

高齢者には足がすくむ新時代

もう 自分の時代でない知りつつも、

でも立ち止まっては居られない

知力・体力は衰えたとはいえ、足も動かし、まだまだ好奇心もあり。

70有余年の「気力-毎日毎日の思い-」が生きる力

ときには世話にもなりながら、

スクラム組んで頑張ろうと気分も新た

God be with You!! 仲間の元気はみんなの応援歌

この新しい時代を笑顔で暮らせるように



【追伸】 7月更新の HP page にかききれませんでした、
 早い異例の梅雨が明けた途端 猛暑になりました
 また コロナもじわじわ増加の兆し
 ウクライナの情勢も混沌と
 巷ではやたらに参議院選挙のポスターが目につきますが、
 今の世相に新しい風を吹きこんでくれるのでしょうか……



2022. 7. 1. 神戸新聞朝刊より

酷暑の夏 いつも頭に浮かぶのは 「平和な暮らし」の事
 にはしておいても 何とかウクライナに平和がもどりますように
 願いとは裏腹に 本当に厳しい酷暑 自然災害も牙をむきそうな気配。
 この暑さがコロナを吹き飛ばしてくれたらも 一つぐらい酷暑も特典があれば・・・
 どうか 「自分の身は自分で守る」の意気
 無理せず 声かけあって この時節を乗り越えましょう



2022.6.30.午後 神戸の巷は35℃を超える猛暑 歩くのもこたえる暑さに
 あまりの暑さに布引の滝道へ 谷筋日陰ですが、挨拶はみんな「暑いなあ!! こたえるわ」と
 どうか無理せず コロナ・熱中症・体の変調にもご用心ください

「地球人」「人の温もり」「一人では生き抜けぬ」こんな言葉を今ほど身近に感じた事はなし。
 はっと気づいた「幾多の困難を乗り越え、人間が生き抜いてきた道
 大空を吹き来る風を胸一杯 気分も爽快 日々新らた
 70余年 毎日の思いが生きる力に
 愚痴は言うまい God be With You!!
 互い声かけあって スクラム組んで 前向いて
 ほっと一息 心地良きひとときの手助けにでもなればと・・・
 どこでも飛び出せる日もまじかと期待一杯
 ぐちはいうまい 新生の息吹を胸一杯 前向いて

仲間の元気は みんなの応援歌 !!
 頑張りすぎず、時には声をあげて !!
 お互いスクラム組んで
 助け合ってこの難局を乗り越えましょう
 笑顔で逢えるのを 楽しみにしています
 まだまだ収束は道半ば
 どうか 無理せず、元気に前向いて
 お過ごしください

また連絡ください God Be With You!!
 From Kobe Mutsu Nakanishi

我が家も夏の薬味 茗荷がすくすくと



ミョウガ(茗荷)

夏を代表する薬味

さわやかな薫りで夏バテ防止

地下茎から出る花穂を食すので「花みょうが」とも呼ばれています。

3世紀に書かれた『魏志倭人伝』で書かれているほど日本では歴史が古い。

刻んでかつお節としょう油をかけたり、みそ汁の具材にしたり。

薫味としてだけでなく、一品にできるのも魅力です。

我が家の裏庭でも 茗荷がすくすく「物忘れがひどくなる」と言われても 夏の素麺などの薬味には欠かせない

先が見えぬ日本 先がどうなる6月22日 参議院選挙が告示

2022年6月 気になった新聞記事・評論より From Kobe 2022.7.1. Mutsu Nakanishi
 混乱する変革の時代の中で、人と人のつながりを考える ご参考になれば

ポストコロナで迎える新時代 激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。

「コロナ対策と経済・雇用の回復への暮らし・雇用・経済の復興」に並行して
もう待たなした「人類の危機地球温暖化の歯止め止め 低炭素社会への大転換」
誰もが避けられぬ経験したことのない

「令和の産業革命 社会・経済の激しい再編の時代」へのターニングポイント

「地球人」「人の温もり」「一人では生き抜けぬ」こんな言葉を今ほど身近に感じた事はなし。はっと気づいた「幾多の困難を乗り越え、人間が生き抜いてきた道

◆立場を超えた人とつながる

◆脱炭素は誰のためか

◆どうか目の曇りはなんのそのと、突き進まぬよう

◆格差是正 実のある分配策示すとき

混乱する変革の時代の中で 人と人のつながりを考える *From Kobe*
 6月神戸新聞焦点/争点より「立場を超えた人とつながる」 2022.6.10.

17 区 2022年6月10日 星期五 第 17 页

焦点/争点

「日本は、経済的・政治的・文化的に、世界に大きな影響を及ぼしている。その影響を、世界に広げたい。そのために、世界に貢献したい。そのために、世界に貢献したい。」

「日本は、経済的・政治的・文化的に、世界に大きな影響を及ぼしている。その影響を、世界に広げたい。そのために、世界に貢献したい。そのために、世界に貢献したい。」

「日本は、経済的・政治的・文化的に、世界に大きな影響を及ぼしている。その影響を、世界に広げたい。そのために、世界に貢献したい。そのために、世界に貢献したい。」

「日本は、経済的・政治的・文化的に、世界に大きな影響を及ぼしている。その影響を、世界に広げたい。そのために、世界に貢献したい。そのために、世界に貢献したい。」

5月 安心して老いられる社会

「日本は、経済的・政治的・文化的に、世界に大きな影響を及ぼしている。その影響を、世界に広げたい。そのために、世界に貢献したい。そのために、世界に貢献したい。」

立場を超え人とながる

「日本は、経済的・政治的・文化的に、世界に大きな影響を及ぼしている。その影響を、世界に広げたい。そのために、世界に貢献したい。そのために、世界に貢献したい。」

「日本は、経済的・政治的・文化的に、世界に大きな影響を及ぼしている。その影響を、世界に広げたい。そのために、世界に貢献したい。そのために、世界に貢献したい。」

混乱する変革の時代の中で 人と人のつながりを考える *From Kobe*
6月神戸新聞焦点/争点より「立場を超えた人とつながる」 2022.6.10.

17 文 化 2022年(令和4年)6月10日 金曜日 壬申 戸 新 風

文化

焦点/争点

ウクライナの死傷者や著名人の急死が連日報じられる影響だろう。論壇各誌に死や老いを巡る論考が並んだ。

きた後も、なお数年生きに、賛意の旗を振ってやろ
続け多待と指摘。「人
間は社会的な生物」で「高
齢者の本来の役割の一つ
は若い世代が自由になれ
るよな。安定した社会を
作るためにを怠くすこ
とだ」と強調した。

そんな小林の主張呼応
する声もあつた。同様に

「質素だった昔の経験
を生かし、街頭のオゾン
包紙やティッシュペーパ
の無駄をチエックし、な
う努力を呼びかける背景
としていた病院収支構造

度はどう設計するか？
(アステイシ) 96号

で、人々の健康を支える
行の医療制度の老朽化を
折し、その刷新を訴える

新型コロナウイルス禍
蔓延したのは、患者の「
期入院や頻回受診」に依
っていた病院収支構造造

地球上の「生命の種」となり、核酸(RNA)は、増殖した後に一部が壊れ、他のRNA分子の材料

5月

「声をあげ始めた産婦たち 井伊雅一は「日本の医療制 7割を超える人々が健

立場を超え人とつながる

の起源だと私は考えている」と説く。生物の誕生後も、あらゆる生物が生と死を繰り返しながら、進化の営みを続けてきたと解説。そうした全ての生物に「同胞としてリベクト」を感じるとつり、地球環境の保護に注意を促す。

他方、生物の中特に人間は、生殖可能な時期が過

このほかの注目論考

「スキーへの危うい「熱狂」と、
「サル言論」の衰退を問う」
現代ビジネス 5月10日）
・作家、浅田彰・京都芸術大教授
を巡り同国を善、ロシアを悪とみなす支
那と田中。浅田は冷戦後に旧ソ連を日
独諸国にも責任があると指摘

「インターセクショナリティが
行ってるんだって?」
〔「現代思想」5月号〕
山本至貴・早稲田大准教授
が複雑に交差する構造に注意を促すため
「セクショナリティ」を解説。差別解消な
くなるよう定義や誤用を紹介

「新しい民主主義を考える」
〔「世界思想」春号〕
宇野重規・東京大教授
威主義国家が増え、民主国家を脅かして
威国家が一揆で領土を追放した中世の加賀国
主義を守り刷新するヒントを探る

情報報をテレビから得て
るとするの21年の東京
都の調査結果についても
告。健康問題を気軽に
に相談できよう、現状
あいまいなからついで
に替えて、地域に根差
「国際標準の家庭医」を
成、普及させることが急
だ力を込める。
安心してゆける

このほかの注目論考

「ゼレンスキーへの危うい「熱狂」と、リベラル言論人の衰退を問う」
 (『現代ビジネス』5月10日)
 田中康夫・作家、浅田彰・京都芸術大教授

ウクライナ情勢を巡り国連を善、ロシアを悪とみなす日本の二元論は浅薄だと田中。浅田は冷戦後に日ソ連を支援しなかった西側諸国にも責任があることを指摘

「今度はインターセクシュナリティが流行するんだって?」
 (『現代思想』5月号)
 森山至貴・早稲田大准教授

多様な権力関係が複雑に交差する構造に注意を促すための概念「インターセクシュナリティ」を解説。差別解消などに役立つ言葉になるよう定義や誤用を紹介

「古くて新しい民主主義を考える」
 (『世界思想』春号)
 宇野重規・東京大教授

世界で独裁・権威主義国家が増え、民主国家を脅かしていると分析。民衆が一度で領土を返した中世の加賀国を例に、民主主義を守り抜くヒントを探る

（共同通信記者・川村敦
敬称略）

脱炭素は誰のためか

編集委員 横田良平

日々小論



「脱炭素（カーボンニュートラル）」。今や毎日のように聞く言葉だが、字面からは硬く感じてしまう。要は、自分たちが住む地球が快適な環境を保つために、みんなで地球温暖化のもととなる「二酸化炭素の排出を抑えましよう」ということだ。

想像してほしい。「数十年に1度」とされる巨大台風が毎年いくつも襲来し、日本のどこかが被災地になる。「酷暑」と言われる夏の暑さが当たり前になり、いつの間にか四季を感じることができなくなる…。今年も、すでに「猛暑日」という言葉が聞こえ始めた。

地球全体の話である。「自分だけ頑張っても、ほか（他国）も取り組まないと意味がない」と考えるのも理解できる。温室効果ガスの排出削減目標を設定した京都議定書、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べ1.5度に抑える目標を掲げたパ

リ協定と、温暖化防止を巡っては欧州の先導が続く。日本は時に、後追いの批判を受ける。

「欧州とはエネルギー事情が違う」とは、取材で聞く産業界の意見だ。ウクライナ情勢を見ても、再生可能エネルギーを中心に据えた電源構成には危うさが見え隠れする。脱炭素の行方も簡単ではないことが分かる。地球全体の話だからこそ、全員で取り組まないと、どうにもならない。

個人的には夏よりも冬の方が好きだし、桜や紅葉、そして雪景色と四季の風情はめで続けた。脱炭素はつまり、今の地球を未来に残していく気概をどれだけの人が持てるか、が問われているのだと思う。

「鉄は熱いうちに打て」は、物事の時機を逸してはならない、このことわざだ。脱炭素へ、これ以上暑くなる前に手を打とう。自分たちと将来のために。

神戸新聞 2022.6.17.朝刊 コラム「正平調」より

〈いくら眼鏡をぬぐってもよく見えない くもっているのは 目の方だった〉

どうか、目のくもりも何のその、と突き進まぬように

正平調

「私は心配する」。詩人の杉山平一さんがそう書いたのは、もう30年以上前のことだ。何を心配するのか。「中流意識にかげりが出はじめた」という報道である。◆「国民は、食え

なくなつたとき、戦争もイデオロギーも何のその、食える方へ、雪崩れうって向かうからである」。大正に生まれ、従軍も空襲も経験しながら終戦までの道筋を見つめた詩人は憂えた◆多くの人が「中流」と感じた時代は今や遠い。格差を切実に訴える論文「31歳フリーター。希望は、戦争。」が議論を起したこともあったのに、雇用不安と貧困に苦しむ層は年々、厚みを増すばかりだ◆暮らしを整え、ささくれがちな心を落ち着けたい。そこそこ食べられて将来を見通せて、子どもたちが望む教育を受けられる。そのためにどんな処方箋があるのか、聞きたい。公示を迎える参院選に向けて願う◆だが永田町から聞こえる声は物価高対策に触れながら、気付くと「国を守る」といった勇ましいものに変わっている。食料も資源も、「安全保障」でくくられる。ほかに言いようはないのか◆杉山さんの詩「思想」を引く。〈いくら眼鏡をぬぐってもよく見えない〉へくもっているのは目の方だった。どうか、目のくもりも何のその、と突き進まぬように。

2022.6.17

社説

2022 参院選

2022. 6. 28

実のある分配策示すとき

物価高に対する国民の不満と不安は高まるばかりである。その根底には、格差是正に向けた「本気度」が見えてこない政治への怒りがあるのではない。

時計の針を少し戻そう。2021年10月8日、岸田文雄首相は就任後初の所信表明演説で「新自由主義的な政策は、富める者と富まる者との深刻な分断を生んだ」と述べた。特に力を込めたのが次のくだりである。「分配なくして成長なし」「今こそ新しい資本主義を起動し、模索していかなくてはなりませんか」

成長と効率優先の新自由主義的な経済政策アベノミクスは、格差の拡大を招いた。雇用は増えたが、非正規が多く、コロナ禍で真っ先に解雇されるなど深刻な打撃を受けた。こうした政策を転換し、格差是正に取り組むとの首相の決意表明に、国民

格差是正

の期待は小さくなかっただろう。

しかし、分配を重視する姿勢は後退した。今や、アベノミクスへの先祖返りが鮮明だ。

参院選の公示前に閣議決定された「新しい資本主義」の実行計画は、「徹底して成長を追求する」とうた

う。人・科学技術・新興企業・脱炭素の4分野に重点投資し、経済を立て直すとしている。大胆な金融政策、機動的な財政政策、成長戦略というアベノミクスの「三本の矢の枠組みを堅持」との文言も入った。

格差をさらに広げかねない政策も盛り込まれた。「個人の金融資産を貯蓄から投資にシフトさせる」とし、株式投資などから得る所得を増やす「資産所得倍増プラン」を年末に策定するという。

大規模な金融緩和が急激な円安を誘発し、物価対策が喫緊の課題とな

っている今こそ、アベノミクスの弊害を直視する必要がある。競争力の強化はもちろん重要だが、暮らしの安心なくしてはコロナ禍からの経済再生は望めない。

とはいえ、財源を曖昧にしたばらまきは避けねばならない。参院選では、本心に困っている人たちの不安を解消し、格差是正につながる分配策を聞かせてほしい。

自民党は新しい資本主義の推進を公約に据えた。人や成長分野への投資で経済を成長させ、所得拡大につながるのと主張は公明党も同じだ。一方、立憲民主、共産、社民の各党は、富裕層の所得税率アップを掲げた。日本維新の会と国民民主党は、必要最低限の金額を給付する「ベーシックインカム」の導入を挙げた。NHK党を含む全野党は、消費税の減税が廃止を訴える。

岸田首相は、公示日の第一声で新しい資本主義に触れなかった。看板政策を丁寧に説明し、野党と議論を戦わせるべきだ。

年寄りの戯言 当事者意識の欠如した三人称発言・会見 もうやめにしたらどうか・・・

2022年5月 和鉄の道 HPより Mutsu Nakanishi

ポストコロナで迎える新時代 激変過酷な厳しい時代だと皆が言う。

「コロナ対策と経済・雇用の回復への暮らし・雇用・経済の復興」に並行してもう待たない「人類の危機地球温暖化の歯止め止め 低炭素社会への大転換」誰もが避けられぬ経験したことのない

「令和の産業革命 社会・経済の激的な再編の時代」へのターニングポイント

この6月の新聞記事やコラムには 先行き不安の中での参議院選挙の中で相変わらずの政治「中央追従型 丸投げの人間軽視」を批判する立場の論がいくつも見られるようになった。(収録2)

先が見えぬ厳しい世相に気候変動・激甚化する自然災害が追い打ちをかける日々ですが、コロナもやっと落ち着く兆し。まだまだ予断はできませんが、収束の兆し気が休まらぬが、そぼふる梅雨の雨もよし。

ほっと一息 わが身や周囲を見渡し、先を考えねばと。

また 人それぞれ 私の勝手な言いぐさで理解していますが、 つい ぶつぶつ 同じことを言っています

2022. 7. 1. From Kobe Mutsu Nakanishi